

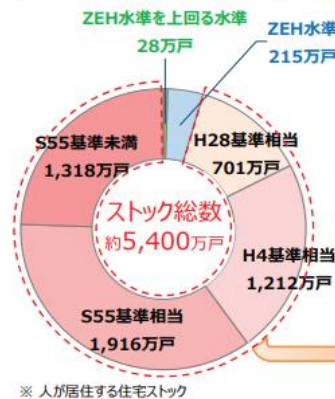
2024/11/1
GX専門家WG資料

【参考】省エネ性能の高い住宅供給を通じたGX実現の必要性・方向性

- 住宅の着工戸数は減少傾向（約80万戸/年[R5]）にあり、人口も減少局面に入っている現状を踏まえると、ZEH水準に満たない「約5,100万戸のストック」の更新機会は限られており、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた「ストック平均※を改善する牽引役」として、ZEH水準を大きく上回る性能を有する「GX志向型住宅」の早期普及が必要不可欠。
※住宅ストックの一次エネルギー消費量の平均
- GX志向型住宅については、ZEH水準の要件である「①断熱等性能等級5」及び「②一次エネルギー消費量等級6（省エネ基準に比して消費量を20%以上削減）」をそれぞれ超える住宅性能や、再生可能エネルギーの自家消費を拡大するための設備の導入等の措置を採り入れることで、バリューチェーン全体でのGX投資の促進にも貢献。さらに、今後、より高い省エネ水準の住宅の供給を促す枠組みや、住宅性能表示制度における基準の充実を検討予定。



【住宅ストックの断熱性能(2022年)】

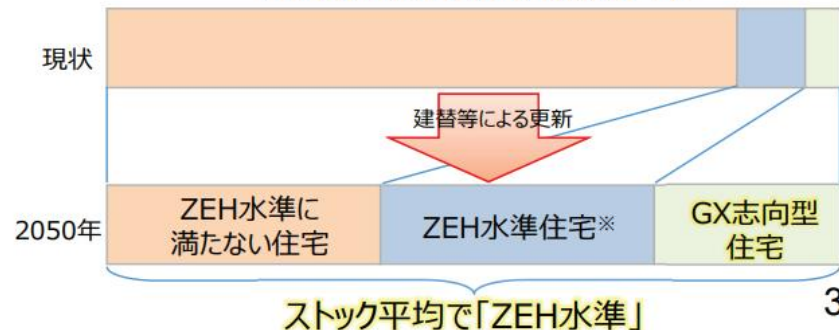


【家庭部門のCO2排出量】

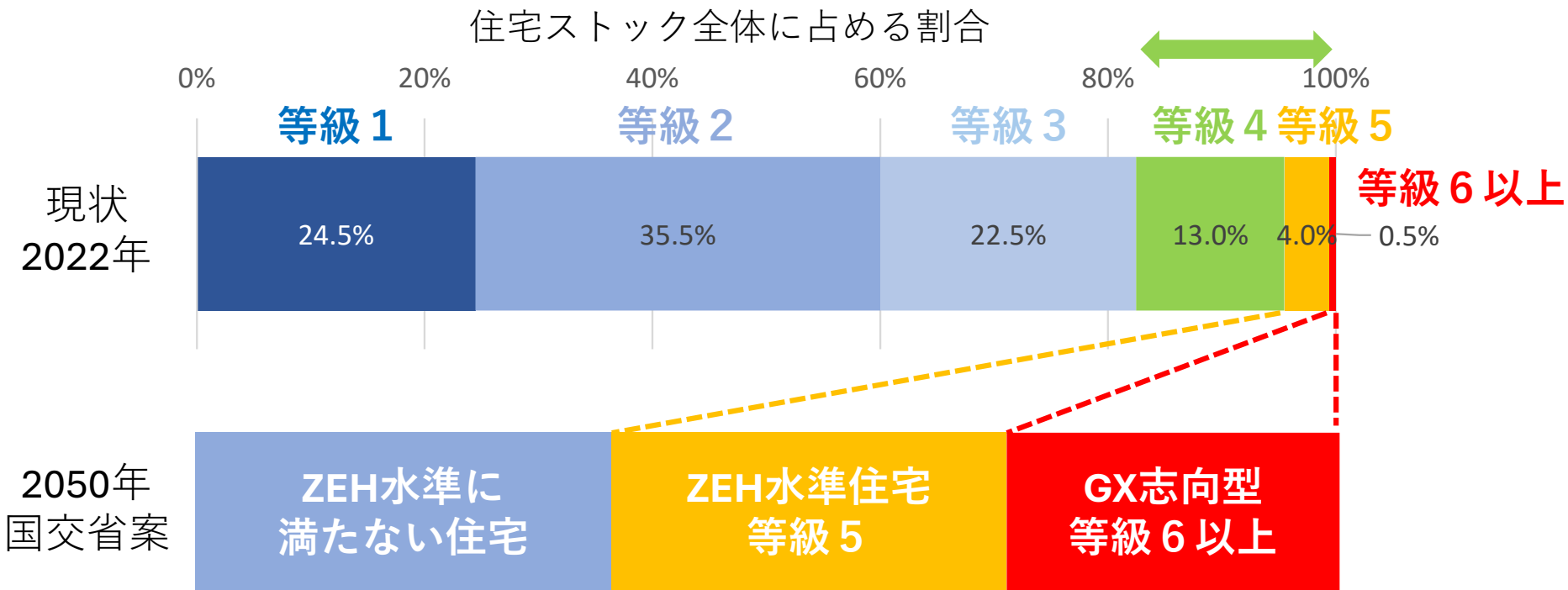


ZEH水準に満たないストック
約5,100万戸 (約95%)

【住宅分野における脱炭素化のイメージ】



1999年制定の等級4は
23年たってもストックの2割未満



新築着工数が急減する中で
2030年新築30%の現想定で達成できるのか？

出典：内閣官房GX実行推進室の「第9回 GX実現に向けた専門家ワーキンググループ」資料
【参考】省エネ性能の高い住宅供給を通じたGX実現の必要性・方向性 2024年11月1日

	着工割合 (%)	加重平均
$0.8 \geq \text{BEI} > 0.75$	60%	1.47
$0.75 \geq \text{BEI} > 0.65$	10%	
$0.65 \geq \text{BEI}$	30%	

出所) 脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会とりまとめ (令和3年8月23日公表)